

## 第10回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成24年1月27日（金） 18時30分～20時30分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

### 3 出席者

(1) 委 員 20名 \*欠席 安部会長、村田委員

(2) 事務局 5名 \*教育委員会企画課 高須課長、国方課長補佐、白井主幹、山崎主査補、  
安井主査補

(3) 傍聴者 13名

### 4 報告・議題

(1) 【報告1】 前回の協議および意見等

(2) 【報告2】 PTA・自治会での意見・質問等

(3) 【議題1】 千城台地区小学校の統合シミュレーション

(4) 【議題2】 次回協議会について

(5) 【議題3】 その他

### 5 会議資料

資料1：「第8回千城台地区学校適正配置地元代表協議会」「第9回千城台地区学校適正配置地元代表協議会」

資料2：『学校規模（概ね適正規模：12～24学級になる）』および『学区の接続（飛び学区にならない）』から、妥当と考えられる統合の組み合わせ」

資料3：「現行学区の場合の児童数推計」「千城台北4丁目および御成台1～3丁目を千城台北小に移した場合の児童数推計」

資料4：「現行学区で、妥当と考えられるシミュレーション」

資料5：「千城台北4丁目・御成台地区」を千城台北小区に移した場合、妥当と考えられるシミュレーション」

資料6：シミュレーション（案）に対して出された意見

### 6 議事の概要

(1) 【報告1】 前回協議会および意見等

前回協議会での協議の内容および前回協議会後の動きについて事務局が説明し、確認した。

(2) 【報告2】 PTA・自治会での意見・質問等

前回協議会以降、各学校や自治会で行われた話し合いや活動についての報告が行われた。

(3) 【議題1】 千城台地区小学校の統合シミュレーションについて

事務局より、資料4～6に基づいて、「学校規模」「学区の接続」の面から見て妥当と考えられるシミュレーションを説明後、質疑応答を含めた協議を行った。

(4) 【議題2】 次回協議会について

次回協議会において、「小学校を統合するかどうかについて、協議会として確認する」ことが了承され、平成24年3月16日（金）18時30分から20時30分、千城台公民館にて開催することとした。

(5) 【議題3】 その他

「協議会便り」第2号の発行については、委員の確認を得ており、修正した後に、今年度中に保護者・地域・関係機関等に配布・周知することが了承された。

## 7 発言要旨

### (1) 報告

#### 報告(1) 前回の協議および意見等

〈山崎議長〉 報告1「前回の協議・意見等」について、事務局に説明をお願いする。

〈事務局〉 「前回の協議」と「それ以降の動き等」に分けて報告する。

まず、「前回の協議」については資料1をご覧いただきたい。既に議事要旨が確定されているので、簡単に説明する。

(前回協議された概要)

- ・「北4丁目と御成台地区を北小学校区とした場合」考えられる組み合わせを提示し、概ね「適正規模となる」シミュレーションを中心に協議した。
- ・協議の中では、「規模」「配置」だけでなく、「魅力ある学校にするために」という観点での検討が必要なのではないか、各委員が宿題として考えてくるようにしてはどうかとのご意見が出された。
- ・今後の協議については、「現行学区」および「北4丁目と御成台地区を北小学校区とした場合」として示したシミュレーションのうち、「規模」と「学区の接続」の面から見て、妥当と考えられるシミュレーションを抽出し、それについて意見を出す形で協議していくことが確認された。

この協議状況を受けて、妥当と考えられるシミュレーションを事前に各委員に送付し意見を提出してもらった。これについてはこの後の協議で取り上げる。

次に、「前回協議会以降の動き」について報告する。

まず、「未就学児保護者への説明が必要である」との考えから、委員の方々にご協力をお願いしたところ、村田委員・山崎副会長からお知り合いの幼稚園に声をかけていただいた。その結果、昨年12月6日(火)に千城東幼稚園で保護者を対象にした説明会を実施した。

次に、「千城台教育を考える会」への対応についてである。この件に関して安部会長から文書を預かっているので、代読する。

[代読文]

第9回協議会の席上、複数の委員から「千城台教育を考える会」によるアンケート収集等、その行動に関しての「ご意見」と、協議会として対応してほしい「要望」が出されたことを受けて、1月10日(月)千城台公民館において「千城台教育を考える会」と話す機会を設けましたので、その報告をします。

- 出席者は、協議会側が会長・副会長の3名、事務局2名、「千城台教育を考える会」側が3名、計8名。
- まず、会長である安部より、第9回協議会において「千城台教育を考える会」によるアンケート収集等、その行動に関して、複数の委員からご意見が出された旨とその内容を、議事要旨を基に重ねて伝えました。
- これに対して、「千城台教育を考える会」側から、今回のアンケートを含めて、次のような説明がありました。

- 「千城台教育を考える会」は、平成21年12月に行われた学校適正配置地元説明会の後に始まった。千城台地域の適正配置について住民とともに考えることを目的にしたものである。「任意の賛同者の集まり」であり、「市民参加および自治に関する条例」を基に、情報収集と教育に関する千葉市および県内の実態把握を主としている。学校統廃合は地域にとっても大きな関心事であり、統廃合や教育に関心をもつ会員が勉強会などを開いている。
- 協議会での委員の皆さんの努力は知っている。協議会に異論を持ち込むという意図はない。協議会で十分に話し合っほしい。統合について反対しているわけではない。
- 「千城台教育を考える会」で昨年8月20日に開いた意見交流会において、「意見や疑問が出ているのに表出する場がない」ということを受けて、本当は地域の方の声を聞いてみたいのだが、経費や人的なこともあるので、今回のようなアンケートの形をとった。あらかじめ学校長に相談した上で配布した。万一、配布に関わった者の接し方を含めて、保護者の中から行き過ぎだとかのご意見が出たのであれば申し訳ないと思う。商店街に配布した認識はない。
- 地域には、いろいろな意見があることを知ってもらいたい。会員の中には、「協議会の内容が全然聞こえてこない、だから心配である」という方もいて、町内自治会レベルでもっと周知すべきであるという意見がある。

■これに対して、安部および事務局より以下のことを伝えました。

- 「もっと周知すべきである」とのことであるが、
  - ・協議会委員、24地区連、学校等、様々な機会を通じて周知を図っている。町内会自治会長の会合の際には、協議会の報告もしている。自治会により、情報の伝達には温度差があると思うが、これは町内会自治会に関わるものでありこの協議会へもってくるのは筋ではない。
  - ・地元への説明は、地元説明会だけで終わったとは考えていない。協議会と並行しながら、自治会、青少年育成委員会、未就学児の保護者等を対象に、事務局が地域に出向いての説明と意見交換を続けている。また、協議会では「要請があれば事務局が説明や意見交換に出向くこと」を確認しており、議事要旨に記している。「必要がある」と考えるのであれば、それを使えばよいのではないか。
  - ・「協議会便り」を発行し、公的な機関に掲示してもらっている。現在、第2号を発行する準備をしている。
 このように周知を図っているし、これからもその姿勢でいく。
- 校長先生によれば、「事前に知らされていなかった。児童生徒が知らない人から何か渡されているということがあると大変心配する。」ということであった。そうした点を十分理解していただきたい。
- 「考える会からのプリント」がある場合、協議会委員に配布し、会の冒頭で意見を聞く形を取っている。このことは、取りも直さず「協議会として、いろいろある意見を取り上げていることに他ならない」と捉えている。委員からプリントに対して意見があるかどうかは別のことである。
- 協議会のメンバーは学校・保護者・地域を代表して責任をもってやっている。話し合いの主体は協議会である。これは間違えずにやっていく。

〈事務局〉 併せて、以下を補足する。

1月13日（金）に、「千城台教育を考える会」2名の方が企画課を訪れ、プリントとアンケート結果を協議会委員に配布してほしい旨の依頼があった。そこで、以下のように対応した。

- ・プリントについては今までと同様に受け取った。（本日配布しているものである。）
- ・アンケート結果については受け取らず、協議会委員に聞いた上で判断することを伝えた。
- ・こちらから「千城台教育を考える会」には以下を指摘・説明した。
- ・「市民参加条例」では、「信頼」を基本としている。
- ・プリントを出す場合だが、協議会の議事については、資料を含めて公開されており、よく確認された上で提示していただきたい。そうでないと「考える会」が記している内容が協議会での議事や資料と違う形になり、市民は戸惑うだろう。改善してほしい。
- ・小規模校と少人数学級が混同されているのではないか。学年の学級数が複数あり、学級あたりの人数が多くない規模で、先生方や職員が相談しながら子どもたちに余裕をもって十分向き合える環境が、子どもたちにとって一番良いのではないのか、小規模な学校のメリットは、適正規模、大規模においても工夫によって生かすことができるものと考えている。小規模のデメリットについては、小規模であることによる物理的な制約が少なくないと言える。

〈山崎議長〉 「千城台教育を考える会」に関する事、および本日配布されているプリントについて、意見があればお願いします。

〈藤井委員〉 子どもたちの下校中にアンケート結果が配られたと聞いている。

〈事務局〉 校長先生から、すぐに連絡をいただいた。アンケートの配布の対応については校長先生にお任せした。

〈大和久委員〉 西小も同様に配られた。この地元代表協議会をはじめ西小PTAで話し合っている内容と全く違うものが書かれており、混乱を招くと思う。今後、「千城台教育を考える会」の意見をどの程度に扱うのか。この協議会の立場はどうなるのか。

〈事務局〉 先ほどの会長からの文書にもあったように、協議の主体は地元代表協議会である。今後の対応は改めて会長・副会長と相談したい。また、本日のご意見を「千城台教育を考える会」にも伝えていきたい。

## **報告（2）PTA・自治会での意見・質問等**

〈山崎議長〉 前回の協議会以降、各校PTAや自治会等で話し合ったり、話題に出たりしたことがあれば、その様子をお聞かせ願いたい。まず、各学校からお願いします。

〈高野委員〉 PTA運営委員会において現在の協議会での進捗状況等を報告したが、特段に意見は出ていない。以前、PTA総会の際に教育委員会に来てもらい説明会を行ったが、今後も機会を見ながら同様に説明会を開こうという考えでいる。

〈大和久委員〉 西小としても特に意見はない。10月に教育委員会に来てもらい、適正配置についての学校説明会を行ったことは、前回協議会で報告している通りである。

〈佐々木委員〉 前回協議会で「御成台1～3丁目を千城台北小に移した場合のシミュレーション」について協議したので、実際に通学路がどうなるのか歩いてみた。

仮に御成台1～3丁目から北小に通うことになると、四街道市の吉岡小の子どもたちと交錯することになり、この点どうなのかと心配である。

- また、PTA役員からは、東小の学級数が保たれなくなるという意見も出ている。
- 〈藤井委員〉 南小では常任委員会において、前回協議会の資料を配布し、協議の状況を伝えている。また、昨年12月に、適正配置についてのアンケートを行った。賛成と反対がほぼ半々であった。特に、反対意見としては、広域避難場所の確保等が多く挙げられている。まだアンケート結果を回収している段階なので、今後まとめていきたい。
- 〈奥田委員〉 旭小では、資料をホームページからダウンロードして理事会で配布した。今後は、教育委員会に来てもらい説明会を開く方向で検討している。社会体育関係との調整を図って、土曜日に行う方向で学校と相談している。
- 〈山崎委員〉 南中保護者は、適正配置についてあまり関心がない。様子を見ている段階である。防犯を第一に考えてほしいという意見は出ている。
- 〈加瀬委員〉 先日、自治会内（西町）で適正配置について20名程度に聞いたので、報告する。
- ・小学校の適正配置としては、現在の5校から3校にする。
  - 統合の組み合わせは、北小と西小、南小と旭小、東小の3校とする案が多い。
  - ・小学校の適正配置としては2校とする意見もあり、組み合わせは東小と旭小、北小と西小と南小とする案が出ている。
  - ・通学距離は、2km以内とする。
  - ・子どもルームの時間帯など、適正配置をする上でも考慮すべきである。
- ※前回議事要旨にも掲載しているが、千城台地区にある子どもルームは通常は18時までであるが、希望すれば19時まで見てもらえる。
- ・学級数は、2学級以上が必要である。
- また、課題や要望として、次のことが挙げられた。
- ・通学路の安全確保はできるのか。
  - ・通学路における交通量の調査を実施してほしい。
  - ・10年程度の長いスパンでの児童生徒数推計の算出ができるとうい。
  - ・学級規模と教員数の関係を知りたい。
  - ・市営住宅を計画的に配置できないか。
  - ・統合場所がどこになっても、学区外通学等、柔軟に対応してほしい。
  - ・廃校となった校舎をどのようにするのかも考えていただきたい。 等
- 〈中村委員〉 私の町内会（北町）では、高齢者が多く、今のところ適正配置についての意見はあまり出ていない。
- 〈谷野委員〉 私の自治会（東町）では、跡施設活用に関心が高いようである。適正配置は、通学距離が大きな要因となるであろう。旭小はとても遠い所（3km以上）から通っている子どももいる。適正配置実施方針にある「2小学校・1中学校」にするにはどうしたらよいのか。統計上は検討できるが、各校のPTAの意見を聞きながら、実際の状況を考慮し考えていきたい。
- 〈多田委員〉 私の孫娘がタイのバンコクに住んでおり、日本人学校の2年生である。今年秋の大洪水で日本人学校が休校になったため10月下旬に一時帰国し、11月いっぱいまで南小の2年生のクラスにお世話になった。現地では1学年10クラスもあるのに、南小ではわずか1クラス15人で、その格差に驚いた。しかしながら、少人数のメリットとして、すぐにクラスの全員と友達になれたようだ。
- 適正配置については、小規模校は常に吸収されると考えているようである。
- 自治会としてはアンケート等は取っていない。私個人としては教育の専門ではないので、適正配置についてどうするか正直言ってわからないが、通学の安全や防犯等では、現在自治会でパトロールを行っている。学校や保護者と連携を取りながら、自治

会としても視野を広げて協力していきたい。跡施設の活用については、私の自治会に自治会館がないので、福利厚生面を含めて考えていただきたい。

〈児玉委員〉 旭小区内の自治会（若鳩会）である。学校・PTAの意見を聞きながら、地域としても考えていきたい。

〈來住委員〉 西中PTAとしては、小学校よりも通学距離についてはあまり気にしていないようである。適正配置については喫緊ではないと考えているようで、実感がないようである。西中には御成台から通学する生徒がいる。通学距離も遠いが、たとえ南中が統合場所となったとしても、通学距離はあまり変わらないと考えている。毎年、生徒数も減少している状況であるので、中学校も適正配置を考えていく必要はあると思う。

## （２）協 議

### 議題（１）千城台地区小学校の統合シミュレーションについて

〈山崎議長〉 まず、事務局から説明をお願いする。

〈事務局〉 先程も説明したように、「現行学区」および「北４丁目と御成台地区を北小学校区とした場合」として示したシミュレーションのうち、「規模」と「学区の接続」の面から見て、妥当と考えられるシミュレーションを抽出し、事前に協議会委員に資料を送付した。そのシミュレーションに対してのご意見をいただいているので、紹介する。

（資料４・５・６に沿って、シミュレーションに関する意見・提出された意見を説明）

〈山崎議長〉 委員からの意見を含めて事務局から説明があったが、これを踏まえて協議していきたいと思う。質問を含めて意見はあるか。

〈大和久委員〉 先ほども多田委員から「小規模校は吸収される感が強い。」とあったが、数合わせ的な適正配置だとそう思われてしまう。統廃合は多かれ少なかれ痛みを伴う。ぜひ、教育委員会の全面的なバックアップをお願いしたい。また、モノレール通りの交通量調査を実施したり、長距離通学をしている地域の防犯対策などを参考にしたりして考えていきたい。

〈鈴木委員〉 １つ１つクリアするのは難しい。本日のシミュレーションも数合わせとは思わない。いろいろ考えて出された案と考えている。学校に活力を与えるためにも、統合するのは良いと思う。私の子も３人いるが、子どもたちが卒業した学校がなくなるのは、正直に言うとさびしくは感じている。

いろいろ議論してきたが、ある程度絞っていく時期に来ていると思う。小学校の適正配置を「２校にするか、３校にするか」については、最終的にプロの世界が決めることであると思う。教育行政の立場としては、みんなの意見を取り入れることは難しいだろう。

現在、旭小の評議員をやっているが、私がPTA会長をやっていた頃は、１２００人の児童がいた。それが来年度の１年生は１クラスと聞いている。このような状況のなか、子どもたちのために早く良い方向へするには、そろそろ意見集約する時期ではないか。

〈鶴岡委員〉 本年度、真砂一・二中の統合が行われ、真砂中となった。その統合校の先生方に話を聞く機会があり、先生方は「どちらの生徒にも平等に気を配り、指導している」と言っていた。「魅力ある適正配置」とあるが、まさに「先生方が子どもたちを大切に指導する」ことが一番ではないかと考える。また、小学校の適正配置においては、「通学距離」は大きいと思う。

- 〈加瀬委員〉 自治会の立場としては、跡施設の活用についても、ぜひこの協議会で話し合っていたきたい。
- 〈谷野委員〉 最近の状況を見ると、千城台地区の中心部は、今以上に宅地・人口が増える状況は考えにくいですが、周辺部はまだ開発の余地があり、人口増が考えられる。また、御成台地区は四街道市が入り込んだ地域であり、学区変更の件でも課題が出ている。通学区域の変更も含めて、行政で調整してほしい。
- 〈佐々木委員〉 私もそろそろ小学校の適正配置を2校か3校かに決めていく時期だと思う。中学校2校・小学校2校（あるいは3校）のパターンが良いと考えている。これから防犯対策などを含めていろいろ考え、方向性を考えていきたい。
- 〈奥田委員〉 協議を前に進めるために、他地区で統合している先行例があると思うので、「学区が広がることにより、安全面でどういう対策をしているのか」など事例を出してもらえるとありがたい。資料としてお願いしたい。

## 議題（2）次回協議会について

- 〈山崎議長〉 「次回協議会」について、事務局からの提案をお願いします。
- 〈事務局〉 第6回協議会以降、「まず、小学校の適正配置についてから協議する」という確認に基づいて進めてきた。その中で「具体的なものを基に協議した方がいいので、シミュレーションを提示してほしい」というご意見を受け、前々回・前回・今回と具体的にシミュレーションを提示して、「規模」の視点から、続いて「配置＝場所」の視点から協議してきた。
- 第5回で示した「協議の流れ」に沿うと、これらの協議を経て「小学校の統合の有無」について確認することになる。そして、「有」となった場合には、具体的な内容、即ち「統合の時期」、「統合の組み合わせ」「統合の場所」を協議・決定する流れとなる。そこで、次回が今年度最終となるため、「統合の時期」、「統合の組み合わせ」「統合の場所」は別にして、これまでの協議をふまえて「小学校を統合するかどうかについて、協議会としての確認・合意をしたい」と考えている。
- 〈山崎議長〉 事務局から考えが示されたが、意見があればお願いします。
- 〈菅原議長〉 仮に「有」となった場合、どのようなスケジュールになっていくのか。
- 〈事務局〉 「小学校の統合有」となった場合、次年度のスケジュールは次のように考えている。
- ・新年度には各団体での役員改選があるため、1回目の協議会は5月下旬～6月初旬になると考えている。そこからは「統合の組み合わせ・時期・場所」について協議することとなる。
  - ・協議がまとまり次第、「統合の要望書」を教育長に提出していただく。
  - ・8月下旬（遅くとも9月上旬）までに、「統合の要望書」が出されれば、その後、校舎改修等の費用を25年度予算に入れる請求を行う。（毎年、8月下旬が要望書提出の時期となり、その1年半後の4月に開校ということになる。）
  - ・要望書提出から開校までの1年半は「改修期間」および「統合学校間の交流と統合準備期間」となる。
  - ・このような経緯を経るため、統合校開校は、最も早くても26年4月となる。
- 〈鈴木委員〉 年度の区切りでもあるので、今回は提案どおり、「小学校を統合するかどうかについて協議会としての確認」をすることで良いのではないか。
- 〈來住委員〉 適正配置を進める方向になると思う。しかし、今までに出された意見はすべて子どもたちにとってデメリットの意見ばかりである。

〈大和久委員〉 「魅力ある適正配置」はメリットであると考え。率直に言うと「良い先生方に来てもらいたい」ということが本音である。小中連携もそういう意味から提案した。

そろそろ方向性を決める時期であり、教育行政の意見を聞きながら、より良い適正配置に向けて進めるべきだと考える。

〈土屋委員〉 学校の先生方は教育のプロであり、誰もが頑張っている。「こういう先生方を呼んでほしい」というのは難しいと思うが、例えば、南中の生徒が卓球が強いのは、千城台地区にある卓球センターのコーチに小学校の時から指導を受けていることも要因の1つである。また、東京の学校では、学習塾と提携して授業を行っている例もある。

「魅力ある適正配置」として、学校が活性化されるのは良いと思うが、荒れている学校では、学年2クラス程度のクラス替えでは分けきれないこともあると聞いている。

〈石原委員〉 先ほど事務局より、次年度のスケジュールが説明されたが、私としては8月下旬までに決めるのは無理かと思う。この協議会が始まった時にも意見を言ったが、「子どもの教育は、学校・家庭・地域・行政が協力して組まないといけない」と考えている。「魅力ある適正配置」として、良い先生が本当に来てくれるのか疑問であり、土屋委員からもあったが、「地域のスポーツ指導者を取り入れたりして強くする」など、みんなで協力してより良い方向へ進めることが大切であると考え。

また、北小と西小が統合することは魅力であるが、登下校においてモノレール通りを渡ることについてはとても不安であり、これからじっくり検討していくべき課題である。

〈事務局〉 先ほどの説明は、仮に「次回協議会で小学校を統合することが確認され、その後の協議も最速に進んだ場合」のスケジュールである。「統合の要望書」が出され、その後の実際の統合までの期間について、もう一度確認する。

要望書を提出していただいてから、最短で1年半の時期に開校すると考えていただきたい。例えば、今年の9月までに要望書を提出すると26年4月の開校、来年の9月までに提出すると27年4月の開校となる。

〈酒井委員〉 安全面や地域性などいろいろな面で考えていくべきである。私は、千城台地区はとてもまとまった地域であると思う。確かに入りこんでいる場所もあるが、住環境は整っている。これを維持するためにも、子どもたちが成長できる統合は進めた方が良い。

〈大澤委員〉 私も統廃合に向けて進んでいくべきであると考え。いろいろ意見が出てくる中で、じっくり考えて絞っていくことが大切である。早く進めるのは良いが、時間がかかると思う。

〈山崎委員〉 この地元代表協議会が解散するのはどのような時期になった時か。

〈事務局〉 この地元代表協議会は、適正配置の協議を行い、統合の合意ができた場合に「統合の要望書を提出してもらい・跡地利用の要望書を提出してもらい」までを担っており、それを終えた時点で役割は終了となる。

一方、「この千城台地区において適正配置は必要ない」となった場合は、その時点でその後の扱いを決定してもらいこととなる。

(休止とする、あるいは児童生徒数の推移を見て再開する等)

〈石原委員〉 「統合の要望書」の記載内容であるが、極端な例だと思うが、統合校への通学負担軽減のため「モノレールを千城台の端まで延ばしてほしい」という要望も入れられるのか。

〈事務局〉 ホームページ上に他地区の適正配置における要望書も掲載しているので、参考にさせていただきたい。記載する具体的な内容は、統合が決定(合意)された時点で協議していくことになる。



- 〈土屋委員〉 次回協議会の資料として、「統合校になった場合の学校予算、経費がどれだけ削減できたのか」についても出していただきたい。
- 〈事務局〉 統合校における「安全対策」と「経費の削減状況」を次回の協議会の資料として提示したい。
- 〈山崎議長〉 「次回の開催日時・場所」について、事務局に説明をお願いします。
- 〈事務局〉 今回は、2か月後の3月、具体的には3月16日（金）18時30分から、千城台公民館で開催するということがか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）。

### **議題（3）その他**

- 〈山崎議長〉 事務局から何かあるか。
- 〈事務局〉 「協議会便り」第2号については、既に委員に確認していただいている。保護者・地域・関係機関等に今年度中には配布したいと考えるが、よろしいか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）。

### **（3）連絡**

- ・次回協議会は、平成24年3月16日（金）18時30分～20時30分、場所は千城台公民館で開催する。
- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただく。委員の確認終了後、修正・確定した議事要旨を、教育委員会ホームページで公開する。
- ・本日の協議内容については、各組織の方々にもお知らせいただきたい。
- ・今回は、協議内容としては「小学校を統合するかどうかについて、協議会として確認する」とし、資料としては、統合校での「安全の確保」や「学校経費等の削減状況」を準備する。この他の資料の要望がある場合には、議事要旨（案）確認の回答用紙に記入していただきたい。